

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00690

研究課題名(和文)小中接続を目指し学習者の思考・判断・表現と学びに向かう力を促進する授業設計と評価

研究課題名(英文) Classroom Design and Evaluation to Promote Learners' Ability to Think, Judge, Express, and Learn for the Purpose of Connecting Elementary and Junior High Schools

研究代表者

泉 恵美子 (IZUMI, Emiko)

関西学院大学・教育学部・教授

研究者番号：10388382

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,990,000円

研究成果の概要(和文)：小学校外国語活動及び外国語科における評価について、学習指導要領の3観点の特に「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価のあり方を考察し、文部科学省共通教材や小・中学校外国語検定教科書の分析を行った。その結果も参考に、3年～6年、中学1年の各学年のパフォーマンス課題とタスク例、並びに4段階からなるCan-Do指標によるルーブリック試案を作成した。その際、5領域別または、統合型タスクを考案し、実際に小学校で授業実践やパフォーマンス評価を行い、児童の自己評価と教員の評価を比較し、どのように児童の思考力・判断力・表現力を深め、学びに向かう力を育成することができたかを考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校外国語活動/教科外国語の評価方法、授業改善、指導と評価のあり方、小中連携は十分に開発・検証がなされていないが、本研究で評価用タスク、パフォーマンス課題の開発と導入、ルーブリックとCan-Doを合わせた評価尺度の設計と実証を行い、広く研究成果を公表・普及できた意義は大きい。また、「思考・判断・表現」や「学びに向かう力」についても授業内タスクや課題を設定し開発することで、有能感や自律性の向上につながり、それが学びへの力となったことは、学習者主体の学びへの転換ととらえることができる。さらに、教師内省シートを実践で用いることで、教員の指導力向上を促し、自信と自律に貢献できたことも成果である。

研究成果の概要(英文)：Regarding the evaluation of elementary school foreign language activities and foreign language studies, we examined the teaching and evaluation of the three aspects of the Courses of Study, especially "thinking, judgment, and expression" and "independent attitude toward learning," and analyzed the common teaching materials of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology and the foreign language textbooks used in elementary and junior high schools. Based on the results, we created performance tasks and task examples for each grade level, as well as a draft rubric with a four-step Can-Do index. In doing so, we devised tasks in each of the five domains or integrated tasks, conducted actual classroom practice and performance evaluation at elementary schools, compared the students' self-evaluations with the teachers' evaluations, and discussed how we were able to deepen the students' ability to think, judge, and express, and cultivate their ability to learn.

研究分野：外国語教育

キーワード：小学校外国語教育 Can-Do評価 パフォーマンス評価 思考・判断・表現 学びに向かう力 小中接続
有能感・自己効力感 自律性

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究を開始した 2018 年度は新学習指導要領が 2020 年度に完全実施になるにあたっての移行措置期間(3年間)の初年度に当たり、小学校中学年で外国語活動が、高学年で外国語が教科として導入されるにあたり、これまでと異なり教科書を用いて指導を行ったり、数値による評価・評定を行うことになるといった英語教育における大きな改革を進める時期であった。さらに、日本における小学校外国語活動/教科英語の評価方法、授業改善、指導と評価のあり方、小中連携はまだ十分に開発・検証がなされておらず、国立教育政策研究所からも指針が出されていない。そのような中、新学習指導要領で育成すべき 3 つの資質・能力(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」)を各教科で、どのように指導し、評価を進めればよいのか大きな課題に直面していた。

(2) 一方、英語教育の小中高で一貫した目標として、欧州協議会より提案されたヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)を参考に日本版 CEFR-J が提案され、「英語を用いて何ができるようになるか」といった、英語の知識・技能のみならず、英語運用能力を育てるの必要があり、文部科学省からも各学校で Can-Do 到達指標を設定し、行動指標で英語を使える日本人を育成することが重要であるとされていた。

2. 研究の目的

(1) 上記に述べた喫緊の課題に対応すべく本研究に取り組んだが、具体的には、小中連携も視野に入れ「思考・判断・表現」及び「学びに向かう力」をどのように英語教育で育成し評価を行うかを考え、児童の学習意欲を促進し、主体的に取り組めるようなタスクや授業設計を開発し、Can-Do 評価と関連させたパフォーマンス評価を実施すると共に、質的・量的な検証を経て公開することを目的とした。

(2) 同時に評価規準や方法を考え授業設計を行うことで、教師の内省が深まり授業や指導法が変容すると考えられ、よりよい指導や授業のあり方を提案し、実践により検証を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

4年間計画的・継続的に研究を行ったが、研究に際しては、研究代表者、分担者が各々の専門的立場から役割分担を行い、研究協力者と共に毎月の会議並びに、日常的なメール会議により、相互に進捗状況を確認しながら協力して進めた。主な研究内容と方法は以下のとおりである。

(1) 小学校外国語活動及び外国語科における評価について、新学習指導要領の 3 観点の特に「思考・判断・表現」の指導と評価のあり方を考察し、新教材を元に 3 年生から 6 年生、中学 1 年生の各学年のパフォーマンス課題とタスク例、並びに Can-Do 指標によるルーブリック試案を作成する。その際、深い思考を促し、対話的で協同的な学びを行わせるために CLIL や CBLT を指導として導入し、TBLA(タスクベースアセスメント)により評価を行うことが有効だと考えられるため、それらをどのように活用できるのか有効性を探る。またルーブリックを基に実際にパフォーマンス評価を行い、児童の自己評価と教員の評価を比較し、どのように児童の思考力・判断力・表現力を深め、学びに向かう力を育成することができたかを考察する。さらに学年により、児童の学びがどのように変容するのかを 4 年間にわたって縦断的に研究する。

(2) パフォーマンス評価と Can-Do 評価の使い分けや関連性の検討、それに伴い総括的評価と形成的評価をいかに有機的に関連付けるかの検討を行う。また、自己評価を活用したポートフォリオ評価を取り入れることにより、授業計画や指導がどのように変化し、授業が改善されるかを、ビデオ録画した授業を分析し、担任や JTE にインタビューを施して、評価が指導にどのように影響を与えるかを検証する。

(3) 小学校外国語で新たに「読むこと」「書くこと」の文字指導を含む 5 領域が導入され、小中連携の大きな要因となるが、どのように段階的に指導し評価すればよいか、リテラシーの評価のあり方や 5 領域の評価のバランスを研究し、実際に評価タスクを開発し、公立・私立の小学校で児童に実施する。またそれらを英検 Jr. や GTEC Jr. など外部試験との比較によりその妥当性と信頼性を検証する。

(4) 小学生の学びに向かう力、つまり主体的に学習に取り組む態度の評価のあり方と評価方法について考察し実際にパフォーマンス評価などを通して評価するとともに、英語学習への態度や動機づけ、評価に対する意識、学習者要因と評価、自律の関係について質問紙調査を行い、互いにどのような相関があるのか実態を探り、指導に役立てる。

(5) 小学校で調査した児童が中学校段階でどのような態度や能力を持っているかを各学年の最初と最終段階で追跡調査を行い、小中連携を目指した評価のあり方や指導法を提案する。

(6) 上記の1～5を達成するために、外国語としての英語学習に取り組む諸外国(韓国・中国・台湾・EU等)の小学校、および中学校の英語指導と評価について(カリキュラム、教材、授業、評価等)の実態調査を行い、評価プログラム開発に反映させる。

4. 研究成果

4年間の研究成果については、毎年研究報告書を作成し、その中に、Can-Do 評価尺度試案、並びに研究論文、実践報告を収録し、科研のHP (<http://www.izumi-lab.jp/easel.html> 参照) に掲載するとともに、冊子にして研究会やWS、学会発表の際に参加者や希望者に手渡しや郵送で配布を行った。また、数々の国内外の学会で研究発表を行ったり、論文投稿をしたり、海外ジャーナルにも掲載され広く研究成果を公表し普及を行った。

(1) 小学校の外国語活動/英語教育における評価について、文部科学省共通教材『Let's Try! 1・2』『We Can! 1・2』小学校検定済教科書外国語、中学校検定済教科書外国語を分析し、それらに基づき、授業中に用いる活動を設計するとともに、Can-Do 評価及びパフォーマンス評価尺度を作成した。それらは、『小学校英語 Can-Do 及びパフォーマンス評価尺度活用マニュアル～思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力評価試案～』(2018年度)同(2)(2019年度)『小学校英語 Can-Do 及びパフォーマンス評価尺度活用マニュアル～小学校英語教科書5領域観点別評価試案～』(2020年度)『小学校英語 Can-Do 及びパフォーマンス評価尺度活用マニュアル～中学校英語教科書接続観点別評価試案～』(2021年度)として作成し、小学校英語の指導者、教育委員会指導主事、大学の教員をはじめ、小学校英語教員の養成や研修に携わる多くの方々に使っていただいた。また、その活用について、学会発表やワークショップ、教員研修等で紹介するとともに、研究成果の発表と普及、検証を行った。

(2) 学習指導要領の観点の中で、特に「思考・判断・表現」の指導と評価のあり方を考察した。具体には、小学校外国語検定教科書の7社15冊を4技能5領域別に分析しその結果をまとめるとともに、中学校1年生用の文部科学省検定教科書6社と教科書会社の教師用資料やHPでの提供資料を分析し、目標と評価規準等をエクセルシートに書き出し、その特徴をまとめ、教科書による比較や分析を行い、それらを基に領域ごとに指導と評価の提案を行った。その際、3観点5領域における指導目標、評価規準、評価の場面や方法と評価規準を一覧にまとめ、小中連携がどのように行われているかも調べた。さらに、文部科学省『小学校及び中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』、並びに国立教育政策研究所教育課程研究センターから出された『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料[小学校 外国語・外国語活動][中学校 外国語]』(2019年、2020年)の事例も参考に、パフォーマンス課題とタスク例、並びにCan-Do 指標によるルーブリック試案などの評価開発を行った。その際、学習者の深い思考を促し、思考・判断・表現しながら対話的で協同的な学びを行わせるためにどのようなタスクやプロジェクト、パフォーマンス課題を設定すればよいかを考察した。さらに、学習指導要領の資質能力の一つである「学びに向かう力、人間性等」を育てるために、メタ認知を高め自己調整学習ができる自律した学習者を育成するために、Can-Do 振り返りシートによる効果に着目し、実践を行った。

(3) 小学校外国語活動・外国語科にCan-Do 評価、パフォーマンス評価を取り入れることで、授業計画や指導がどのように変化し、授業が改善されるかを、国立・公立・私立小学校で実際の授業を通して実践検証を行った。その際、児童・保護者、教員の同意を得て協力を依頼した。また、ルーブリックを元に実際にパフォーマンス評価を行い、児童の振り返りシートを用いた自己評価と教員の評価を比較し、どのように児童の思考力・判断力・表現力を深めることができるかや、教員と児童の評価のずれなど課題を洗い出し考察した。

また、指導者の内省シートやビデオ録画した授業や児童のパフォーマンス例を分析し、評価が指導にどのように影響を与えるかを検証した。いずれも児童を巻き込み丁寧に形成的評価を行うこと、思考ツールなどを用いた問題解決型学習や教師の介入や支援が大切であり、そのためにも児童の目標を設定させ、今の力を自覚し、次の目標に向かわせ、自分のパフォーマンスを振り返り、次の目標を立てるといった自己調整学習のためのCan-Do 評価の意義や、教師も活動設計を行うことで授業を改善したり、児童を丁寧に見取ることができるなど、児童と教師、双方の自律や変容につながることを判明した。

(4) 小学校外国語で新たに「読むこと」「書くこと」(文字指導)をどのように段階的に指導し評価すればよいか、リテラシーの評価のあり方を継続して研究し、トップダウンとボトムアップの視点からの目標と指導・評価の在り方を検討し、実際にテスト問題等を開発し、国立・公立・私立の小学校で実施した。また、小中を接続するブリッジレッスンにどのように取り組むのかを、文部科学省が発行している教材などを参考に6年生に対して実践授業を行った。児童の自己評価(Can-Do 評価による振り返りシート)と読みの力(アルファベット知識、音韻認識能力、語

彙力、など)は相関があることが分かり、児童のアセスメント・リテラシーをつけることで、正しい評価を行うことが分かった。

(5)小学生の学びに向かう力、つまり主体的に学習に取り組む態度の評価のあり方と評価方法について考察し、パフォーマンス評価などを通して評価するとともに、英語学習への態度や動機づけ、学習者要因など情意面と評価、自律の関係について振り返りシートや質問紙調査を用いてデータを収集し、考察を行った。その結果、意味を中心として児童が本当の気持ちを伝えたり、自己表現や意味のやりとりを行う楽しい言語活動を通して、児童の学習意欲が高まり、Can-Do評価による振り返りや児童とのルーブリックの共創などを継続することで、児童の有能感や自己効力感が向上し、動機などが高まることが分かった。

(6)毎年、研究成果の普及や教員研修の一部として、各地でワークショップやキャラバン、シンポジウムを実施した。コロナ禍で対面での回数が減り、オンラインでの開催となったが、年間4回程度は実施、多くの教員や研究者に参加していただき、小学校英語の評価について、ともに考えることができた。また専門家による講演や、小学校教員の実践発表の場も提供することで、ネットワークを広げ、担任、英語専科教員、中学校英語教員など、様々な立場を超えて、小学校英語の指導と評価についてともに考える機会が多く持てた。HPの更新も随時行い、セミナーやワークショップの予定やチラシを掲載し広報に務めた。また、毎年作成したCan-Doリスト、パフォーマンス評価試案等を冊子として公開し、多くの方にダウンロードして活用していただいている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 Mitsue Allen-Tamai	4. 巻 -
2. 論文標題 Developing an Effective English Literacy Program for Public Elementary Schools Children	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The JACET International Convention Proceedings: The JACET 60th Commemorative International Convention (Online, 2021)	6. 最初と最後の頁 137-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 アレン玉井光江	4. 巻 15(8)
2. 論文標題 子どもが英語を読むプロセス 音から文字への指導をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子ども英語ブッククラブ	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 泉 恵美子、長沼 君主、山川 拓、幡井 理恵	4. 巻 22
2. 論文標題 思考・判断・表現を見取る 5 領域の指導と評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JES Journal	6. 最初と最後の頁 54-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20597/jesjournal.22.01_54	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒川愛子	4. 巻 3
2. 論文標題 TPR原理を用いた外国語コンピュータ・プログラムの小学校段階での活用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 帝塚山大学子育て支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田縁 真弓	4. 巻 6
2. 論文標題 臨時休校時におけるオンライン授業とその評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 KELESジャーナル	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18989/keles.6.0_44	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森本敦子	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 高野山大学における英語教育カリキュラムとその展望 小・中学校における教員養成の提案	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 高野山大学文学部教育学科紀要	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 保野 知里	4. 巻 22
2. 論文標題 小学校における外国語専科教員制度に関する現状と認識	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JES Journal	6. 最初と最後の頁 134-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20597/jesjournal.22.01_134	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アレン玉井光江	4. 巻 69(6)
2. 論文標題 今、あらためて問う小学校外国語教育の意義と目的	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アレン玉井光江・塚原麻衣	4. 巻 62
2. 論文標題 ストーリーを中心にした授業で獲得した児童の英語力について 英語学習に影響を与える要因	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 青山学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 29-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 泉恵美子	4. 巻 69(12)
2. 論文標題 いまさら聞けない評価の「3観点」の基本のきを教えてください	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 12 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 泉恵美子	4. 巻 23
2. 論文標題 英語教育における実践研究の概略 アクション・リサーチ、リフレクティブ・プラクティス、探究的実践を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JACET Kansai Journal	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒川愛子・山川拓・泉恵美子	4. 巻 57
2. 論文標題 小学校における「外国語活動」・「外国語科」の授業が中学校入学時の聴解力に及ぼす影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Language Education & Technology	6. 最初と最後の頁 61-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24539/let.57.0_61	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒川愛子・森本敦子	4. 巻 2
2. 論文標題 小大英語教育連携事業から観察された児童と学生の学び	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝塚山大学子育て支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野尚美・高梨庸雄・田縁真弓	4. 巻 20
2. 論文標題 リテラシー教育の視点に基づくStorytelling活動：小学生の英語読み書き能力を養うLearning by Storytelling(LBS)の開発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JES Journal	6. 最初と最後の頁 400-415
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20597/jesjournal.20.01_400	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 保野知里・泉恵美子	4. 巻 43
2. 論文標題 小学校外国語活動指導者の指導不安軽減につながる校内研修プログラムの開発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 77-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18989/seit.43.0_77	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 保野知里	4. 巻 1241
2. 論文標題 児童の文字への興味・関心を高める指導の検討：中学年の外国語活動における実践から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校教育 (広島大学附属小学校学校教育研究会)	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 泉恵美子	4. 巻 9月号
2. 論文標題 小・中学校英語におけるパフォーマンス評価事例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 アレン玉井光江, 泉恵美子	4. 巻 38
2. 論文標題 小学校英語における文字学習とCan-Do評価 客観テストと自己評価の関連性について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 泉恵美子	4. 巻 68 (11)
2. 論文標題 小中高を見通してこれから授業で重視すべきこととは	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 泉恵美子, 幡井理恵, 田縁真弓	4. 巻 20
2. 論文標題 小学校英語Can-Do及びパフォーマンス評価実践における児童の変容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JES Journal	6. 最初と最後の頁 36-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20597/jesjournal.20.01.36	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 泉恵美子	4. 巻 5
2. 論文標題 今求められる英語教育における授業研究とは 内省的実践家・教師自律をめざしてー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 KELESジャーナル.	6. 最初と最後の頁 10-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18939/keles.5.0.10	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大田亜紀	4. 巻 44
2. 論文標題 小学校外国語教育における評価の在り方 先行実施校における校内研修を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 初等教育 - 研究と実践 -	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤拓由	4. 巻 67 (11)
2. 論文標題 第1特集英語教師の指導力：校種に応じたクラスルームマネジメント力を鍛える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒川愛子	4. 巻 18
2. 論文標題 日本人中学2年生・3年生のスピーキング力育成に対する「ラウンド制指導法」の効果に関する実証研究 スムーズな小中接続に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外国語教育メディア学会(LET)関西支部研究集録	6. 最初と最後の頁 99-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森本敦子, 黒川愛子	4. 巻 1
2. 論文標題 小学校英語授業における教師と児童のやり取りの分析-授業の談話記録からの考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帝塚山大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 75-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 泉恵美子	4. 巻 12月号
2. 論文標題 グローバル時代における英語教育 - 文化と言語への気づきを大切にした指導と評価 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校教育 (広島大学附属小学校学校教育研究会)	6. 最初と最後の頁 14 - 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 泉恵美子	4. 巻 19
2. 論文標題 小学校英語指導者養成における課題と展望 コア・カリキュラムを踏まえて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Allen-Tamai, Mitue, Brace Jeffrey, Bulach Juergen, Brooke Sebastian, Butler Brenda, Dias Joseph, & Strong Gregory	4. 巻 4,
2. 論文標題 Researching extensive reading and an online library.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Extensive Reading World Congress Proceedings	6. 最初と最後の頁 294-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 アレン玉井光江	4. 巻 1211
2. 論文標題 外国語活動および外国語における「見方・考え方」のとらえ方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校教育（広島大学附属小学校学校教育研究会）	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大田亜紀（監修）	4. 巻 1年間連載
2. 論文標題 （1年間の連載）主体的・対話的で深い学びを実現する外国語活動 実践のヒントとアイデア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 小学館『小四教育技術』	6. 最初と最後の頁 44-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤拓由	4. 巻 12月号
2. 論文標題 Can Do 評価尺度を活用した授業設計とリフレクションの工夫	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 小学館『小六 教育技術』	6. 最初と最後の頁 26～29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 黒川愛子	4. 巻 17
2. 論文標題 日本人中学生のスピーキング力育成に対する「ラウンド制指導法」の有効性に関する実証研究 中学2年生段階での活用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外国語教育メディア学会(LET)関西支部研究集録	6. 最初と最後の頁 31-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計67件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 アレン玉井光江
2. 発表標題 公立小学校におけるリタラシープログラムの効果について－授業時間数との関係から見た実証研究
3. 学会等名 第21回JES関東・埼玉大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 泉恵美子・長沼君主・山川拓・幡井理恵
2. 発表標題 思考・判断・表現を見取る5領域の指導と評価 小学校外国語検定教科書の特徴を踏まえて
3. 学会等名 第21回JES関東・埼玉大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Emiko Izum & Mayumi Tabuchi
2. 発表標題 Teaching and Evaluation in Japanese Elementary School English Classes Using ICT in the Corona Emergency
3. 学会等名 The 19th Asia TEFL International Conference 2021 (5th December) Delhi, India, Online (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 泉恵美子・長沼君主・大江太津志・加藤拓由・山川拓・アレン玉井光江・田縁眞弓・森本敦子
2. 発表標題 小学校英語検定教科書をもとに考える領域別指導と評価
3. 学会等名 言語教育エキスポ2021 (JACET (大学英語教育学会))
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mitsue Allen-Tamai
2. 発表標題 A Literacy Program for Young EFL Learners at Public Elementary Schools
3. 学会等名 2021 Joint Conference in Korea (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 犬塚章夫・金沢優・山本純一・加藤拓由
2. 発表標題 英語を話せるようになりたい」に学校教育は応えられるか？ 小・中学校でできること
3. 学会等名 中部地区英語教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大田亜紀
2. 発表標題 指導と評価の一体化 パフォーマンス評価にも焦点を当てて
3. 学会等名 JASTEC (日本児童英語教育学会) 第41回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 俣野知里
2. 発表標題 ICTを活用した 自己のパフォーマンスへの気づきを促す指導の検討
3. 学会等名 JASTEC第41回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 俣野知里・泉恵美子
2. 発表標題 小学校外国語専科教員の現状と認識 - グループインタビュー調査をもとに -
3. 学会等名 日本教科教育学会第47回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森本敦子・黒川愛子
2. 発表標題 思考を促すインプットとやり取り重視の英語授業による児童のスピーキング力と情緒面に対する影響 学期末「スピーキングチャレンジ」からの観察
3. 学会等名 JASTEC第41回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥平明香・加藤拓由
2. 発表標題 ループリックを使った「話すこと」の指導と評価～ [やり取り] から [発表] へ～
3. 学会等名 JASTEC第41回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田縁真弓
2. 発表標題 読み書きでつまづく児童への手立て
3. 学会等名 JASTEC第41回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mitsue Allen-Tamai
2. 発表標題 Effective English Literacy Instruction for Elementary and Junior-High School Students
3. 学会等名 The JACET 60th Commemorative International Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田縁眞弓・アレン玉井光江・泉恵美子
2. 発表標題 小中連携を支える読み書きの指導とその評価のあり方
3. 学会等名 第21回小学校英語教育学会 (JES) 関東・埼玉大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒川愛子・中野研一郎
2. 発表標題 小学校外国語活動・外国語科におけるTPR原理を用いた外国語学習コンピュータ・プログラム活用の提案
3. 学会等名 第21回JES関東・埼玉大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 オーガステイン真智・小野尚美・田縁眞弓
2. 発表標題 Learning by Storytelling(LBS)指導モデルに基づいた英語で書く力の素地となる中学年の英語指導法開発
3. 学会等名 第21回JES関東・埼玉大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥平明香・加藤拓由
2. 発表標題 思考ツールで育む小学校外国語5領域の言語活動～思考を伴うinputから他者意識を高めたoutputへ～
3. 学会等名 第21回JES関東・埼玉大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mitsue Allen-Tamai
2. 発表標題 An Effective Literacy Program for Young EFL Learners
3. 学会等名 JALT2021-47th Annual Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥平明香
2. 発表標題 『読むこと』の言語活動の指導と評価
3. 学会等名 JASTEC第41回秋季研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chisato Matano & Emiko Izumi
2. 発表標題 Current Status and Perceptions of EFL Teachers in Japanese Primary Schools
3. 学会等名 The 19th Asia TEFL International Conference 2021 (5th December) Delhi, India, Online (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 俣野知里
2. 発表標題 文字指導，書くことの指導～何をどこまで指導すればいいのか～
3. 学会等名 JASTEC第41回秋季研究大会課題別分科会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 幡井理恵
2. 発表標題 話すこと[発表]評価事例と教師の姿
3. 学会等名 小学校外国語授業づくり研究会プレミアムセミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奥平明香ほか
2. 発表標題 「伝えたい！」思いを大切に育む小学校外国語の言語活動
3. 学会等名 言語教育エキスポ2021
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 奥平明香
2. 発表標題 即興的なやりとり～小・中・高のそれぞれの実践を体験的に学び考える～
3. 学会等名 英語授業研究学会255回例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 アレン玉井光江
2. 発表標題 文字学習に関する児童の自己評価について
3. 学会等名 第20回小学校英語教育学会年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 泉恵美子・長沼君主・俣野知里・加藤拓由・幡井理恵・大田亜紀・山川択・アレン玉井光江
2. 発表標題 Let's Try! におけるCan-Do及びパフォーマンス評価試案 外国語活動における思考・判断・表現を伴う活動設計
3. 学会等名 第20回小学校英語教育学会中部・岐阜大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 泉恵美子・長沼君主・森本敦子・俣野知里
2. 発表標題 小学校英語における思考・判断・表現と学びに向かう力を促進する授業設計と評価
3. 学会等名 言語教育エキスポ2020 (JACET (大学英語教育学会) 主催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 泉恵美子・長沼君主・加藤拓由・大江太津志・アレン玉井光江・田縁真弓
2. 発表標題 資質・能力を育てる活動設計と5領域におけるパフォーマンス評価
3. 学会等名 言語教育エキスポ2020 (JACET (大学英語教育学会) 主催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤拓由
2. 発表標題 ～あらためて考える～『小学校外国語（活動）の意味』
3. 学会等名 英語教育ユニバーサルデザイン研究学会第1回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤拓由
2. 発表標題 3密にならない小学校外国語（活動）の工夫
3. 学会等名 学級経営学会愛知支部大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤拓由
2. 発表標題 新しい生活様式と小学校英語
3. 学会等名 日本児童英語教育学会（JASTEC）中部支部秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野尚美・オーガスティン真智・田縁眞弓
2. 発表標題 リテラシー教育の視点に基づく絵本の読み聞かせを活用した英語で書く能力を養成する指導法開発
3. 学会等名 第20回小学校英語教育学会中部・岐阜大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田縁眞弓・ノートルダム学院小学校英語科チーム・泉恵美子・吉本連・オーガスティン真智
2. 発表標題 臨時休校時におけるオンライン授業とその評価法の開発-英語学習の学びを止めないための試み-
3. 学会等名 第20回小学校英語教育学会中部・岐阜大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 俣野知里
2. 発表標題 児童の気付きを促し，興味・関心を高める指導の検討 - 第 5 学年における文字の音を扱った実践から -
3. 学会等名 JASTEC第40回秋季研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Allen-Tamai, Mitsue, Ide Mamiko, Tsukahara M.
2. 発表標題 Teaching English to Young Learners through Stories and Assessing their Abilities
3. 学会等名 Joint International Conference on English Teaching and Learning in Korea (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 アレン玉井光江
2. 発表標題 公立小学校における読み書きの指導－文字指導の目標とその成果
3. 学会等名 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第40回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉恵美子
2. 発表標題 どう繋ぐ？外国語活動から外国語，そして中学校へ ～学習指導要領からみる小中一貫の英語教育～
3. 学会等名 日本児童英語教育学会（JASTEC）第40回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長沼君主・加藤拓由・幡井理恵・俣野知里・萬谷隆一・泉恵美子・森本レイト敦子・黒川愛子・大江太津志・田縁眞弓
2. 発表標題 小学校英語Can-Do及びパフォーマンス評価～思考・判断・表現力及び主体的に学習に取り組む態度をいかに測るか～
3. 学会等名 第19回小学校英語教育学会(JES)北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉恵美子・幡井理恵・田縁眞弓
2. 発表標題 小学校英語Can-Do及びパフォーマンス評価実践における児童の変容
3. 学会等名 第19回小学校英語教育学会(JES)北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 アレン玉井光江
2. 発表標題 「読み」「書き」の基礎スキルに関する児童の Can-Do 評価
3. 学会等名 第19回小学校英語教育学会(JES)北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒川愛子・山川拓
2. 発表標題 スムーズな小中接続に向けてのパフォーマンス課題と評価の取組-思考力・判断力・表現力の育成のために-
3. 学会等名 第19回小学校英語教育学会(JES)北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉恵美子
2. 発表標題 小学校低・中・高学年における英語短時間学習～音から文字へ～
3. 学会等名 第17回英語教育総合学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒川愛子
2. 発表標題 日本人中学2年生・3年生のスピーキング力育成に対する「ラウンド制指導法」の効果に関する実証研究 スムーズな小中接続に向けてー
3. 学会等名 FLEAT (Foreign Language Education and Technology) VII (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Izumi, Emiko・Tabuchi, Mayumi
2. 発表標題 Assessment for Learning Using Can-Do Statements in Elementary School English
3. 学会等名 FLEAT (Foreign Language Education and Technology) VII (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉恵美子
2. 発表標題 新学習指導要領に基づく指導と評価 知識・技能を習得し，思考を深め表現する自律した学習者の育成
3. 学会等名 英語授業研究学会第31回(設立30周年記念)全国大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒川愛子・山川拓・泉恵美子
2. 発表標題 小学校「外国語活動」・「外国語科」の授業が中学校入学時の聴解力に及ぼす影響
3. 学会等名 全国英語教育学会第45回弘前研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 アレン玉井光江
2. 発表標題 小学校高学年児童による英語の文字を読む力と書く力の発達についてー単語認識につながる力
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉恵美子
2. 発表標題 小学校での読むこと・書くこと
3. 学会等名 日本児童英語教育学会(JASTEC)第12回教材・指導法研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大田亜紀
2. 発表標題 思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価
3. 学会等名 日本児童英語教育学会（JASTEC）第39回秋季研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉本連・秋田幸絵・田縁真弓・泉恵美子
2. 発表標題 外国語科・国語科でのルーブリックを用いたパフォーマンス評価と Can-Do による自己評価
3. 学会等名 日本児童英語教育学会（JASTEC）第39回秋季研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉恵美子
2. 発表標題 Small TalkとOral Interactionのねらいと進め方
3. 学会等名 日本児童英語教育学会（JASTEC）関西支部春季研究大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田縁真弓
2. 発表標題 小学校における文字指導
3. 学会等名 JACET リーディング研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉恵美子
2. 発表標題 教員養成における課題と展望 - コア・カリキュラムを踏まえて -
3. 学会等名 日本児童英語教育学会第39回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 アレン玉井光江
2. 発表標題 We Can!を使用した公立小学校におけるリタラシー指導
3. 学会等名 日本児童英語教育学会第39回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長沼君主, 泉恵美子, 山川拓, 森本レイト敦子
2. 発表標題 小学校英語新教材における活動設計とCan-Do評価
3. 学会等名 第18回小学校英語教育学会（JES）長崎大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉恵美子, アレン玉井光江, 田縁真弓
2. 発表標題 小学校英語新教材における文字指導とCan-Do評価
3. 学会等名 第18回小学校英語教育学会（JES）長崎大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉恵美子
2. 発表標題 『小学校外国語活動・外国語科』で何を、どのように学ぶのか
3. 学会等名 日本児童英語教育学会関西支部「外国語活動・外国語研究会」特別例会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉恵美子
2. 発表標題 小中高の接続・連携の具体的な在り方 京都教育大学附属学校による実践を基に
3. 学会等名 英語授業研究学会第30回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 俣野知里，泉恵美子
2. 発表標題 小学校外国語教育における教員研修の現状と指導者の意識
3. 学会等名 全国英語教育学会第44回京都研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 アレン玉井光江
2. 発表標題 公立小学校におけるリタラシー指導 - 音韻認識能力の発達との関連から -
3. 学会等名 日本教育心理学会第60回総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 アレン玉井光江
2. 発表標題 Learning English through stories
3. 学会等名 Tokyo JALT Teaching Younger Learners
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 アレン玉井光江
2. 発表標題 音声指導から読み・書きの指導 - 音を大切にした文字指導
3. 学会等名 日本児童英語教育学会第38回秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 俣野知里, 泉恵美子
2. 発表標題 小学校外国語教育における校内研修の現状と課題から提案へ
3. 学会等名 日本児童英語教育学会第38回秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉恵美子
2. 発表標題 これからの小・中・高の英語教育の方向と小・中, 中・高, 高・大の連携 - 次期学習指導要領を踏まえて
3. 学会等名 英語授業研究学会関西支部秋季研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉恵美子
2. 発表標題 コミュニケーション・自己表現活動（高学年）
3. 学会等名 日本児童英語教育学会第8回教材・指導法研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田縁真弓
2. 発表標題 We Can!に見る明日の小学校英語
3. 学会等名 全国英語教育学会・小学校英語教育学会合同セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Izumi, Emiko, Tabuchi, Mayumi
2. 発表標題 How to Assess Japanese Elementary School Pupils' English Ability Using Can-Do Statements
3. 学会等名 The 17th Annual Hawaii International Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計28件

1. 著者名 赤沢真世（編）俣野知里・田縁真弓ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 小学校外国語科・外国語活動の授業づくり	

1. 著者名 泉恵美子・多田玲子・田邊義隆（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 朝日出版社	5. 総ページ数 97
3. 書名 Basic English for Teachers of Young Learners - 楽しく教える子ども英語 -	

1. 著者名 直山木綿子・大田亜紀（監修），篠栗小学校	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 96
3. 書名 Let's Challenge!! 伝わる喜びを味わう子どもが育つ小学校英語教育	

1. 著者名 加藤拓由・狩野晶子・東仁美（編）奥村明香・幡井理恵ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明治図書	5. 総ページ数 120
3. 書名 小学校外国語活動・外国語とっておきの言語活動レシピ	

1. 著者名 Subhan Zein & Yuko Butler Goto(Eds.), Mayumi Tabuchi	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 202
3. 書名 English for Young Learners in Asia: Challenges and Directions for Teacher Education (Routledge Research in Teacher Education)	

1. 著者名 西田理恵子(編)田縁真弓他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大修館	5. 総ページ数 253
3. 書名 動機づけ研究にもとづく英語指導	

1. 著者名 アレン玉井光江	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 96
3. 書名 New Horizon Elementary English Course 5, New Horizon Elementary English Course 6, Picture Dictionary	

1. 著者名 泉 恵美子、小泉 仁、築道 和明、大城 賢、酒井 英樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 180
3. 書名 すぐれた小学校英語授業－先行実践と理論から指導法を考える	

1. 著者名 金谷憲、粕谷恭子、物井尚子、萬谷隆一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 103
3. 書名 「動画でわかる」英語授業ハンドブック 小学校編 萬谷隆一「外国語活動・外国語における評価について」	

1. 著者名 池田勝久編, 田縁真弓, 加藤拓由, 泉恵美子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 教育開発研究所	5. 総ページ数 164
3. 書名 小学校英語「5領域」評価事例集	

1. 著者名 山本 玲子、田縁 真弓	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 160
3. 書名 小学校英語 だれでもできる英語の音と文字の指導	

1. 著者名 金澤佑 (編) 泉恵美子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 202
3. 書名 フォーミュラと外国語学習・教育 定型表現研究入門	

1. 著者名 樋口忠彦 (監修) 泉恵美子 (編者代表) 加藤拓由・俣野知里・森本敦子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 210
3. 書名 「深い学び」を促す小学校英語授業の進め方 スモールトークからコミュニケーション活動へ	

1. 著者名 小学校英語教育学会20周年記念誌編集委員会（編）萬谷隆一・泉恵美子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京書籍	5. 総ページ数 184
3. 書名 小学校英語教育ハンドブック 理論と実践 : 小学校英語教育にかかわるすべての方へ	

1. 著者名 樋口忠彦, 泉恵美子, 加賀田哲也（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 研究社	5. 総ページ数 227
3. 書名 小学校英語内容論入門	

1. 著者名 泉恵美子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 354
3. 書名 児童心理学の進歩2019年版 (Vol.58)	

1. 著者名 泉恵美子, 田縁真弓, 川崎真理子（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 167
3. 書名 低学年から始める英語短時間学習 すぐ使える活動アイデアと単元展開	

1. 著者名 吉田晴世, 田縁真弓, 泉恵美子, 加賀田哲也	4. 発行年 2020年
2. 出版社 受験研究社	5. 総ページ数 559
3. 書名 小学自由自在英語	

1. 著者名 金森強・泉恵美子他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 -
3. 書名 ONE WORLD Smiles 5&6	

1. 著者名 加藤拓由	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明治図書出版	5. 総ページ数 175
3. 書名 小学校英語 ゲーム&アクティビティー80	

1. 著者名 アレン玉井光江(監)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小学館	5. 総ページ数 96
3. 書名 名探偵コナンと楽しく学ぶ小学英語ドリル 単語編	

1. 著者名 アレン玉井光江（監）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小学館	5. 総ページ数 160
3. 書名 名探偵コナンと楽しく学ぶ小学英語 - これ一冊で小学校の英語がバッチリわかる！	

1. 著者名 アレン玉井光江（監）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小学館	5. 総ページ数 95
3. 書名 名探偵コナンと楽しく学ぶ小学英語ドリル 1. 2 1. 2	

1. 著者名 アレン玉井光江（監）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Pie International	5. 総ページ数 71
3. 書名 はじめてのさがしておぼえるえいごのことば	

1. 著者名 アレン玉井光江（監）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩崎書店	5. 総ページ数 -
3. 書名 Read Disney in English えいごでよむディズニーえほん 10冊	

1. 著者名 高橋一幸・泉恵美子・加賀田哲也・久保野雅史（編著），樋口忠彦（監修）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 315
3. 書名 Q&A高校英語指導法事典 現場の悩み133に答える	

1. 著者名 Allen-Tamai, Mitsue	4. 発行年 2018年
2. 出版社 JALT	5. 総ページ数 8
3. 書名 Exploring online and extensive reading in an oral English course. In P. Clements, A. Krause, & P. Bennett (Eds.), Language teaching in a global age: Shaping the classroom, shaping the world.	

1. 著者名 外国語活動・外国語実践研究会（編著），大田亜紀	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東洋館出版	5. 総ページ数 159
3. 書名 実践！新学習指導要領 基本が分かる 外国語活動・外国語科の授業	

〔産業財産権〕

〔その他〕

科研プロジェクト（EASEL）小学校英語Can-Do評価 http://www.izumi-lab.jp/easel.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	萬谷 隆一 (Yorozuya Ryuichi) (20158546)	北海道教育大学・教育学部・教授 (10102)	
研究分担者	長沼 君主 (Naganuma Naoyuki) (20365836)	東海大学・語学教育センター・教授 (32644)	
研究分担者	アレン・玉井 光江 (Allen-Tamai Mitsue) (50188413)	青山学院大学・文学部・教授 (32601)	
研究分担者	田縁 真弓 (Tabuchi Mayumi) (60646769)	京都光華女子大学・こども教育学部・教授 (34307)	
研究分担者	黒川 愛子 (Kurokawa Aiko) (50821526)	帝塚山大学・教育学部・准教授 (34601)	
研究分担者	大田 亜紀 (Ota Aki) (80848614)	別府大学短期大学部・その他部局等・准教授 (47605)	
研究分担者	加藤 拓由 (Hiroyuki Kato) (50848215)	岐阜聖徳学園大学・教育学部・准教授 (33704)	
研究分担者	森本 敦子 (Morimoto Atsuko) (80911198)	高野山大学・文学部・専任講師 (34701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------